

平成30年度 第2回 西伊豆町総合教育会議議事録

- 1 開催日時 平成31年1月16日（水）午後2時30分から午後3時45分まで
- 2 開催の場所 福祉センター 大会議室
- 3 出席者 町 長 星 野 淨 晋
教 育 長 清 野 裕 章
教 育 委 員 鈴 木 秀 輝
教 育 委 員 渡 邊 美 成
教 育 委 員 森 本 仁 子
(欠 席 者 教 育 委 員 山 本 久 美 子)
- 4 事務局 事 務 局 長 高 木 光 一
学 校 教 育 係 長 石 田 智 直
社 会 教 育 係 長 萩 本 泰 宏
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 事
 - (1) 平成31年度西伊豆町教育行政の基本方針案について
 - (2) 教育委員会事務事業全般について
 - (3) その他

局 長 定刻となりましたので、ただいまから平成30年度第2回西伊豆町総合教育会議を始めさせていただきたいと思います。最初に町長からご挨拶申し上げます。

町 長 みなさんこんにちは。先日は成人式に出席していただき、ありがとうございました。全国的に言うと、荒れているところもあるようですが、西伊豆町はとても穏やかでいい成人式だったと思いますし、今年の成人式は例年と比べても、いい成人式だったと思います。子どもも少なくなっておりますけれども、質の良い教育と見守る環境が出来ていればいい子どもに育つと思っておりますので、今後とも皆様のご協力をいただきながら、西伊豆町の教育行政をおこなっていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

局 長 ありがとうございます。引き続き、議事に入ります。議事の進行につきましては、町長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

町 長 それでは、さっそく議事の（１）「平成31年度西伊豆町教育行政の基本方針案について」を始めていきたいと思えます。事務局より説明をお願いします。

教育長 皆様のお手元に配られている資料に基づいて説明をさせていただきます。2019年の西伊豆町教育行政の基本方針をご覧いただきたいと思えます。基本方針に書かれている一番上の四角のなかで、国の第3期教育振興基本計画2018年から2022年にかけてのものになるのですが、とくに必要なものを抜き出したものになります。

候補といたしましては、1番から5番まであります。そのなかでさらに加えたいものを、その枠の下へ記載いたしました。個人としては充実した人間として、主体的に判断し、多様な人々と共同しながら新たな価値を創造する人材の育成。社会としては1人1人が活躍し、豊かで安心して暮らせる社会の実現。社会には地域、国、世界の持続的な成長、発展を目指していくということでもあります。そこに静岡県教育振興基本計画、2018年から2021年「有徳の人づくり」というものを加えます。

このなかからさらにまとめたものが、西伊豆町教育大綱、2019年から2022年度版になります。これは前回のこの場でもお知らせしたとおりの教育大綱になります。そしてその教育大綱の基本理念としては、夢をはぐくみ、ふるさとを語れる人づくり。基本目標としては、西伊豆で育ち、育てる。こちらが中央の四角のなかになります。

そこからさらに2019年度の重点目標ということで一番下の枠の中にあります。これについては、重点目標として昨年度から引き継いだ、1番と2番が基本となるということで残しております。3番から10番につきましては、西伊豆町教育大綱の4ページに当たりますが、こちらの方から大きな項目を抜き出しまして、その下に何件か項目があり、その中でもとくに来年度ということにかつこの中に記しておきました。ここからさらに具現化した目標が各学校の経営目標、様々な目標へと枝分かれしていくことになります。

裏の方を見ていただきまして、2019年度の西伊豆町の教育環境整備という所で、様々な点に力を入れたいということになります。

1番としては、2021年の中学校統合、2024年の園・小学校統合と小中一貫教育の実施に向けた準備をおこないたい。

2番が既存校舎の安全な維持管理と複式学級の課題、緩和のための人的支援。とくに既存校舎の安全の方が力が入ると思います。主に現在の校舎の安全と快適に過ごせるような配慮が求められると思います。

3番については、小学校と中学校の普通教室にエアコンを設置。とくにこれは昨年の夏に大きく話題となったところですが、そのようなエアコンを設置して、少しでも学習環境を良いものにしたと考えます。

4番の校務支援ソフトを導入し、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保する。成績を出す前というのは、教科担任が成績を様々な分野別に整理して、伝票へと書き入れます。その伝票を学級担任が集めて通信表を作成します。こちらもだいぶ電算化されてオンラインで処理されるようになってきました。

しかし、指導要録という学校に5年間保存する書類があり、中学校3年生の高校入試の際に、調査書へと転記する手間があります。そういったものをまとめてオンラインで処理していくものが、校務支援ソフトになります。相当な金額になるものですが、県の方で半額を持たせて、賀茂地区6市町で費用を分担して導入しようというものです。西伊豆町は来年度に加わる予定です。

5番目が指導主事と幼児教育アドバイザーによる指導力の向上。現在の指導主事は西伊豆町と松崎町を担当しております。幼児教育アドバイザーについては、来年度から6市町で回して、実施していくこととなります。

それから6番。特色ある学校づくりの推進。こちらはこれまでやってきたことでありまして、各学校で何が必要なのか、とくにICT関係を頭において予算を立てて頂くという形をとっております。内容については下記のとおりです。

7番の外国青年招致事業、JETプログラム活用による国際化の推進ということで、現在ALT3名、CIR1名が国際教育の充実ということで活躍して頂いております。そして小学校の外国語教育の充実として、静岡大学による支援も現在受けております。旧田子中学校を利用して、町内留学を1学期中に実施する予定です。ざっと説明をさせていただきました。

町 長 ありがとうございました。この件につきまして、質問やご意見がありましたらお願いします。

渡邊委員 これはあくまでも抜粋でしょうか。

教育長 こちらの方で長期計画などもありますので、来年度ということでは絞ったものがこちらです。こちらだけということでは決してないです。

鈴木委員 6番の特色ある学校づくりの主なメニューの中で、1番から4番までであるのですが、この1番から4番については、各学校も同じように進めていくということではよろしいですか。その中でICTやプログラミングなどの丸についてはどの学校もやるのか、それは各学校の裁量に任せられるということなのですか。

教育長 特色ある学校づくりですので、横並びでやるのではありませんので、その点は各学校に考えていただきます。結果的に同じになるものもなかにはあると思います。

鈴木委員 この1番から4番は触れるようにということではないのでしょうか。

教育長 どこでも取り上げているのが4番になります。とくにこれをやりなさいということではありません。

局 長 こちらの方針案については、事務局の方でも考えたものということですので、皆様のご意見をいただくとありがたいです。これを基にして学校の方で方針を決めていくような形になります。

森本委員 西豆地区で一緒におこなう行事などを今後多めにやっていただければ、今後統合するにあたってはいいのではないのでしょうか。

町 長 ちなみに、今の音楽発表会はどのようにしているのでしょうか。西豆地区でおこなっているのでしょうか。それは小学校からになるのでしょうか。前に聞いた話では、小学校か中学校は運動部分とは隔年で交代しているということで、小学校2年生のときにあると、6年生のときにはないので記録が残らないということでした。

教育長 小学校です。西豆地区4校で共同開催しております。交互に開催するという内容は合唱と陸上になります。合唱をやった翌年は陸上というように繰り返しになります。

町長 それはどうにもならないのでしょうか。

教育長 西豆地区の教育研究会という組織で、行事を減らしたいということで一度減らしておりましたが、そこから復活させたいという声もあったことから、そこへと落ち着いたという状況です。

町長 中学校の合唱は合同にやっているのでしょうか。

教育長 合唱は毎年開催しておりまして、西豆地区でおこなっております。

森本委員 中学校の陸上は学校毎です。

渡邊委員 賀茂中学校は記録会ですけれども、西伊豆中学校は体育祭ですね。それを一緒にやるとなると学校の特色が薄れてしまうのでしょうか。

西伊豆中学校の体育祭は、生徒がとても意識高くやっております。賀茂中学校の記録会もモチベーションもあると思います。

町長 西豆地区合同でやると無理があるかと思いますが、西伊豆町だけでやればどうかできませんか。今年は賀茂中学校の記録会を見させてもらいましたが、昔に比べると増えており、昔は純粋な記録会と聞いていたのですが、今年はそのような雰囲気でもなく、みんなで楽しめるような種目が増えてきたと思います。

逆に生徒人数が減ると出来なくなると思います。田子中学校のときも私は生徒会長でしたが、全部割り振って、フィールドをやっているときに800mや3000mを同時進行でおこなっておりました。

渡邊委員 何かを立ち上げるにしても、ドッジボールの例を見ますと、親負担でやるとどうなのかという気がします。練習から本番まで親が出され、協力的な方もおりますが、学年によっては親が機能しないようなところもあるみたいですので、親主体で新しいものは難しいと思います。子どものことを考えればそういう機会はいいかと思います。

鈴木委員 先ほど教師が減るという話がありましたが、ますます減ってくると運営が出来なくなります。今は小学校の西豆地区の陸上大会も中学校の先生に来てもらって何とか運営しております。これが5年後に西伊豆町の統合の話を含まずに、賀茂地区で教員が100人いなくなるという話ですが、ますます人が減っていきますと運営が厳しくなってくるのではないのでしょうか。

教育長 小学校と中学校が一緒になる小中一貫の義務教育学校をおこなってみますと、小学校文化と中学校文化が一緒になるという所で、いくらか抵抗があるので、そこを緩和して交じり合っているものを作り出していくことが難しいとも聞いております。学校によって文化がありますので、それを融合させるということについては、統合前から力を入れていかなければならないと思います。

渡邊委員 地域住民性で考えなければならないということですね。昔の方がもっと強かったのだと思いますが、今でも残っており、意識が強いですね。

教育長 学校の統合というのもただ二つが一つになるということではなく、そこを乗り越えていかなければならない所と捉えますので、相当な準備が必要だと思います。

町長 逆にそれががあるので、森本委員が言うように、今のうちから会うきっかけを一つでも多く作っておけば、知らず知らずに仲良くなっていたというようになるかと思います。保育園と幼稚園などはそうだと思います。行事を合同でやったりしているので、仲良くなるのは早いと思います。

森本委員 小学校でも社会見学などは一緒に行っております。

教育長 中学校についても、西伊豆中学校が出来る前は、仁科中学校と田子中学校で部活の交流を盛んにおこなっておりました。

鈴木委員 回数は多くはなかったのですが、あと授業にも行っておりました。

渡邊委員 それは何年くらい前でしたか。

鈴木委員 西伊豆中学校に統合する2年くらい前のことです。田子中学校も最後には生徒だけでは運営できないということで、地域の人と一緒に運動会をおこなってありました。

町長 逆に今からそれをやってもいいですね。町民運動会は運営ができず、参加者も少なくなったので取りやめておりますので、あくまでも町内運動会で中学校もやりますという体にして、保護者や地域の住民も半強制的に参加してもらえれば。

教育長 そのあたりがこれからの話の中で上がってくれば反映するような感じでしょうか。いきなり今後やりますということにしてしまうと、そこでまた問題が出てしまいます。

鈴木委員 田子中学校がそれをやったときに、仁科小学校もそうして欲しいという要望がありまして、仁科小学校の運動会も同じように地域の方も一緒におこないましたら、保護者から批判が来ました。

町長 可能な範囲内で。他に何かありますか。とりあえずは議事の(1)はここで終わりにしまして、また何かありましたら3番のその他でお願いします。次に議事の(2)「教育委員会の事務事業全般について」お願いします。

局長 とくに事務局の方では用意しておりません。まずは皆様から普段お気づきの点があれば、町長もいらっしゃいますので、お話していただければと思います。賀茂小学校では昨年、田子小学校では今年から午前5時間授業を始めましたが、何か聞いていることや感じていることがありましたらお願いします。

渡邊委員 とくに聞いていないですね。子どもからはどういう反応なのでしょうか。

鈴木委員 賀茂中学校の1年生や2年生に聞いたことがあり、忙しかったと言っていました。5分しか休み時間しかなく、話の中では授業を45分の内、実質的には40分くらいで終わらせるというのが校長の説明でありましたが、生徒たちから聞くと時間いっぱいまでやっているの

で、5分の移動は大変だったと言っておりました。

局長 その間にトイレも済ませてということですね。

鈴木委員 はい。放課後が自由になったということもあるのですが、その間の休み時間がきつかったというのが子どもの話でした。

森本委員 結局給食の時間も遅くなり、12時40分に食べ始めなので、朝ご飯を食べてこない子は結構おなかが空くみたいで、なかなか朝から沢山は食べられない子もいると思いますので、可哀そうかなと思いました。

町長 ただ話によると、食べ始めがあまりにも遅いので、食べないといけないので今まで食べて来なかった子が食べてくるということもあるみたいですよ。

それこそ前に、県のお茶条例が出来て、川根茶をいただいているのですが、その絡みで、給食のときにお茶を出すので牛乳を昼に出さず、2時間目の休み時間に飲ませればという話をしたことがあるのですが、それはできないのでしょうか。ちょっと小腹が空いたときに牛乳を一本飲めば多少は落ち着くのではないのでしょうか。

局長 早く配達をお願いすれば出来なくはないかと思いますが、飲む時間の確保がどうか。

鈴木委員 みんなが飲むということになると、きついのではないのでしょうか。フッ素塗装と同じで。仁科小学校だと20分休みがあるので、そういう所なら考えられるかもしれません。

町長 仁科小学校は20分休みがあるのですか。

鈴木委員 2時間目と3時間目の間は20分休みです。

渡邊委員 昔は15分休みでした。

町長 私のころは毎回10分休みでした。

渡邊委員 学校によってそんなに特色を出せるのですか。簡単にできるのでし

ようか。

教育長 教育内容を変えるわけではないのです。

渡邊委員 なら、土曜日に半日授業をやることはできるのですか。

鈴木委員 それは無理です。週5日という労働基準法がありますので。

教育長 高校によっては、土曜日の半日の授業をやっている所もあるのですが、それは職員を入れ替えて、塾の先生などをお願いをしてやっているみたいです。

鈴木委員 大きな私立などは講師を多く雇うので、先生によって休みを分けるシステムをとっているみたいです。

町長 小学校では難しいですね。担任がおりますので。中学校、高校のように教科別になっていれば、その教科の先生だけで足りるかもしれませんが、小学校は担任がいなければ話にならないと思いますので。

ちなみに教育委員会の事務事業全般なので、教育委員会は教育委員さんで成り立っているのですけれども、皆様の教育委員会はこういうときにやってもらいたいというものがありますか。基本的には定例会が月に1回あるのですが、その他にこういうときに開いてほしいとか、この月はいらぬのではないかとというのはありますか。

渡邊委員 モチベーションがすごく難しいといたしますか、今でもやっても分からない所があります。どこまで影響がある立場なのか、世の中の規定に則って配置されているだけであって、どこまで発言の内容が響いていくものなのかとも思いますし、逆に私が異議申し立てするようなことなのかと思うと、非常に深いといたしますか、雑にできないと思います。

町長 ただ今までは教育長は教育委員さんが互選をして決めるので、あくまでも町とは別組織でした。それが3年前くらいから教育長は行政が任命しております。今までは、教育委員の中でこの人を教育長にしようと思って人選をしていましたが、あくまでも互選でした。

今は完全に町の方から決めて教育長にしておりますので、こちらか

らすると教育長は教育委員さんからの意見を吸い上げたものをこちらに持ってきます。教育委員さんが言ってこないものを聞きにくいですし、こちらからあまり教育に関して言うてしまうと、西伊豆町の教育に対して、あまりにも行政の力が強すぎるので、なるべくなら教育委員さんが色々な人からの意見を聞いたり、西伊豆町の教育はこういう風にしたりした方がいいということを、教育委員会で言ってもらったものを、教育長から行政に言ってもらった方が僕はやりやすいかと思いません。

今はこのような総合教育会議があって、年2回は一緒に皆様と話ができますので、直接言っていただければ、それで今後予算査定もありますので、逆に今年の夏は暑いということでエアコンの話が出まして、この間補正予算を取りまして、入札にかけます。

8月9月の教育委員会のときに全国的にこのような話があるのですが、西伊豆町の教育委員会として行政にこういうものをつけましょうという提案を皆様が話し合ってくださいと、うちの方は議会の方に予算承認をとらなければならないので、教育委員会からこのような案が来て、現状からこうしたいという提案がしやすいです。

行政があまり教育委員会のことに口を出しすぎると、政治色の強い教育になっても困りますので、今までは別個にしておりました。

渡邊委員 とにかく意見という意見は、自分が持ってない意見でも、人から聞いたりしたものを持ってきて、とにかく声を出してやってきたつもりなのですが、逆にどういうことを教育委員に求められているのでしょうか。

先ほどの教育大綱もそうですが、出来上がったものに対して意見をするというのも、そこから意見を言うほど事のなり始めから携わっていないような気がして、これだけ出来上がってきたものに対して、これは違うとは言えない。自分の持っている教育観や価値観でもないと思えます。とにかく色々な意見をここで話せばいいかと考えてやっているのですが。

町長 今でも子どもの教育のことを考えている皆様がいて、あまりにも1人でも突拍子もない考えがあった場合には、そういう話には持っていけない。あくまでも5名の中で議論をして、西伊豆町教育委員会としての考えをまとめて頂ければありがたいと思えます。逆に色々な意見を言っていたらかなければ、どういうことが山積しているかわかりま

せん。

局長 教育委員会としましても、議案以外にその他として聞くような機会というのがありませんでした。総合教育会議を年3回当初予定しておりまして、その中で皆様から意見を出していただけるとありがたいと思っていたのですが、定例会の都度皆様からの要望などを聞けるような時間をとることも必要かと感じました。議題以外にはなかなか広げられなかったところことについては、事務局としても反省いたします。

町長 西伊豆町で不登校は10人くらいいるということで、僕らの中ではどなたかというのは分かりませんし、皆様の方が地域にいらっしゃるの、名前は出さないで、この子はこのようなことで悩んでいるのではないかということが出てくれば、その部分を改善して行こうというのはできるかと思います。

そこあたりの地域の意見などを持ち寄ってもらえるとありがたいですし、全国でこういう事例があるということも投げてもらいたいのかと思います。

局長 定例会が終わった後非公式ということで雑談はよくあるのですが。

町長 非公式の方が話やすいかもしれないですね。一回止めておいた状況で話をして、重要だと再度思ったことをもってきてもらうこともいいと思います。

渡邊委員 本当に教育とはということは、本当に個人的に勉強させていただいてもらっております。道徳とかも含めて、道徳、宗教、教育はバラバラではないと思います。教育は教育単体では動けるものではなく、国レベルの根幹としてあるのかもしれない。教育だけ切り離してというのはすごく難しいところです。教育が解決できれば、あらゆるものが解決できるような気がしますが、いじめなどの問題の解決というのは、あり得ないのでしょうか。

町長 では、議事(2)の「教育委員会の事務事業全般について」は、今後教育委員会を開く中で、色々な皆様の意見が吸い上げやすいような環境を作るようなことをお願いできればと思います。それでは3番のその他について、色々なお話が出てきておりましたが、皆様からご意見

がありましたらお願いします。

渡邊委員 終わってから言おうと思っていたのですが、この基本方針の自立、協同、創造のところの自立と協同ですが、主体性と協調性ということでしょうか。世の中の的には主体性と協調性という方が理解しやすいのではないのでしょうか。自立、協同、創造でもいいとは思いますが、どちらの方が堅実に生きる言葉になるのかと思うと、そちらの方がわかりやすい気がしますし、主体性と協調性を学ぶというのは大事だと思います。

どちらかといいますと、協調性から日本の義務教育というのは来ているのかもしれませんが、それがどんどん右肩下がりになってくると同時に、日本人は主体性を持たなければならないということが上がってきていると思います。その主体性とわがままというのは違うと思いますし、主体性が協調性を奪ってもいけないと思います。

今の少子化で人数が少なくなったという、分母の土台の部分で人数が少ないわけですので、協調性もすごく大事だと思います。これからの世の中の的にはすごく主体性というのが求められていく部分もあると思いますし、資本主義社会においては、お金持ちが勝ち組だとすると主体性に長けている人が勝っていき、そういうバイタリティが強い人が勝ち誇っていくと思います。主体性と協調性どちらかにするのではなく、どちらも大事という部分では、自立と協同という言葉よりも。

町長 その自立と協同、創造の部分は2期の計画になりまして、今は3期の計画で、その流れから個人で自立した人間として主体的に判断し、多様な人々と協同しながら進化していくというようになります。2期計画というのは2017年までの計画の目標で、それを受けて第3期が2018年から2022年ということで、個人や社会に進化させていることだと思います。

鈴木委員 主体性や協調性というと、言葉の意味ですと本人の性格や内面的な物になります。自立、協同、創造となると、行動面がどうなるのか求めているのかと思います。精神的な面を求めようと思うと主体性や協調性というような言葉が出てくるのかと思いますが、行動面を求めようとすると、自立や協同が出来るという言葉が後ろについてくるのかと思います。

渡邊委員 いい言葉だらけですね。いい言葉もたくさん並んでしまうとぼやけてしまうということもありますので、そんな風になってしまったらどうしようもないかとも思いました。教師も共通認識としてもぼやけてしまい、実地の日常の中では生きてこないような気がします。

どのくらいの文字数が実地に生きるのでしょうか。あまりここで文字数を絞ってしまうのは可能性を狭めてしまうことにもなりますが、それは学校の方針にいうことなのでしょう。ここではメニューとして色々な言葉を乗せることが大事なののでしょうか。

教育長 上から順に抽象から具体に移行しておりますけれども、そのようなところで具体で決まってしまうと、学校の自由裁量が難しくなりますので、そこは学校のほうへと任されている部分があると思います。学校がありまして、学級もありますので、そこまで下りていくには、この中でとくに具体的にかみ砕いてという話になってきます。

ここに静岡県教育振興基本計画というものは1行だけしかありませんが、実際にはとても厚い本になっております。そののところも1枚にまとめるには、切ったところはたくさんあります。

町長 ただ、なかなか難しいのは、教育は地域や家庭という話が、今はどちらかという学校や教育委員会がやってくれるものというようになってきていると思います。逆に地域の人を祭り上げようとすると、地域の子の負担が増えるので反感を買います。本当は教育委員会が無くても子どもは育つと思うので、本当はそちらの方が望ましいのかと思います。ただ、そうしてしまうと元の木阿弥になってしまうので、あくまでもここで議論をしなければいけないということになります。

今日もたまたま伊東に住まれている方が本を出版されたので、西伊豆町に届けてくれたのですが、その人が自分の親が戦中で忙しかったので、おばあさんに育てられたようなのですが、おばあさんは読み書きが出来なかったらうけれども、自分たちに昔話や知恵などの教育を施してくれたので、今私はこのように育っていますということがあとがきで書いてありましたが、逆にそのころは隣の子にも自分の子のような扱いをして育てていたと思いますし、どこの子かわからなくても子どもと一緒にいるという環境があつての子育てが出来ていたと思います。あまり文言や冊子に書いてあることにこだわるよりは、違う方向から考えた方が教育はいいかと思います。

教育長 教育関係の本というのは、叩かれないようにというのがほとんどの基本になっております。なので、ここでこう書いてあるけれどもどうなのかというのはたくさんあるかとも思います。その所の所がつかれないような形になっております。

町長 そうなると全部書かなければならなくなります。そうすると文字数が増えてしまう。何を言われても書いてあることを説明しなければならなくなる。

森本委員 考え方は人それぞれなのですけれどもね。

町長 子どもは十人十色なわけですので、一つに括れるものではないですし、逆に取り方によっては、一つのことに對しても反発する子もいれば、それを良しと受け止める子もいます。褒めてもひねくれた人間は褒められたと分からなかったという人もいますので、何が正解というのはないですね。

森本委員 不登校についても、子どもが中学3年なのですが、何人かいらっしやって聞くといじめとかではないそうなので、何かあるのでしょうか。

町長 ただ問題なのが、今の日本の社会は高校を卒業するのが最低ラインで、願わくは大学卒業しないと就職が難しいので、中学校卒業して高校卒業の資格がないとその後どうするかということまで考えなければ。中学校いかないと高校に入学できる学力があるかわからないです。

森本委員 入ったとしてもそこからついていけるかという問題もありますね。

町長 逆に昔のやんちゃだった人たちがたくさんいた頃が楽でした。高校中退でも普通に社長になっている人もいます。

渡邊委員 それこそもっと上の世代には中学校にいかなくても大物になった人間もいますね。世の中が整理されて中学校もいかないというのは、とんでもないことになってしまったのですね。他人の承認が基準にあるというのは可哀そうだと思います。他人の承認によって評価されるというのが根本にあると思います。

町 長 逆に田子でやっている適応指導教室で、その子の好きなことだけを伸ばすということはやっぱりしないのですか。

局 長 画一的な教え方はしてないです。初期段階で勉強までいかない場合などは、まず話を聞くことや、心を安らかにさせるというところから入っております。それからその子にあった支援、指導を行っています。従いまして、その子の得意な部分を伸ばすということは、適応指導教室でも十分可能かと思えます。

町 長 よく自閉の子とかは、一つに集中すると集中力があるというので、逆に他の教科はいいので、これだけ突き詰めてもらえば高校卒業しなくても、その分野で伸びるといようなことも。

局 長 確かに特別支援学級には、ひとつの事に非常に長けている子もいます。そこをうまく伸ばしつつ、社会性を少しずつ身に着けていけばと思っておりますので、教育委員会といたしましても個々に合ったフォローをしてあげたいと思っております。

渡邊委員 中学校まで行くと、数学などは難しくなり、大人になっても役に立たないといながらやっているわけで、実際に大人になっても使わなかったりすると思えます。趣味の世界のような気がしまして、それに長けている人はそれに突き進んでやっていただければと思えます。

町 長 学校は教えなければならないものなのではないでしょうか。教科書も配られて、ノルマ的にやらなければならないと思えます。今言われたように、中学校3年生の数学は社会人になっても使わないと思えますので、逆にそこを省いてもよろしいのでしょうか。

教育長 教えるという方向から学ぶという方向に変わってきているのですが、学ぶにしろ教えるにしろ、入試で一定レベルに達していないと、通過するというのは難しく、大学についてはAOなども出てきてはおりますけれども、高校ではそういうシステムは出来てはおりません。

渡邊委員 ストレスしかないですね。ただ、我慢強い人間にするというドリル

にはなりますね。いやなことでもやらなければいけないということを教えるという面で。

鈴木委員 指導要領でこういうことを教えるというのは細かく決められております。それは全国の子どもたちの学力の水準を一定に保つためにあります。数学なども難しくなっておりますので、教科書を渡しておけばいいとなってきましたが、松崎中学校で数学を教えており、数学の教科書通りに教えていけばいいので、教えるのはすごく楽です。

技術をやっている人は、受験にないので、押さえておかなければならないというのはありません。ルアーづくりをやっている方もいました。それは結局は受験科目ではないため、そのようにやっている現状もあります。

今の小学生くらいから、プログラミングが大学入試に入ってきます。理科系の私立大学だと、数学と理科から1教科、英語の3教科から選べばいいのですが、そこに必ずプログラミングが入ります。文系の私立なら国語と英語と社会科系から1教科にプログラミングが入るようになる話です。そうなると、プログラミング教育というのは小学校、中学校で何を教えるのか問題になってきます。

渡邊委員 人類がみなプログラミングの方へと行かなくてもいいと思います。技術、家庭科も大切な授業だと思います。

町長 また何かいい案がありましたら是非お願いします。ただ、今後いければ、国の言っているみんな平等に教育を与えて、最低限の学は持ちましようと思いますけれども、実際大人になって目指すところはそこではありません。逆に地方で数が少ないから、何かに特化する、子どもの興味のあることを伸ばす教育をすることを、西伊豆町の移住、定住を促す一つのアイデアかとも思いました。

渡邊委員 何かに特化するというのが、どこかにあれば。

町長 ただ難しい所が、特化にこだわりすぎますと、普通の子に育ててほ

しいと言われますと、教育委員会のほうとしても対応できないのではないのでしょうか。

渡邊委員 あくまでも可能性、受け皿としての選択肢としてですね。

鈴木委員 総合的な学習の時間というものもありますので、そこを利用して学習するという手もあります。仁科小学校も確か総合の時間だったかと思います。

森本委員 賀茂小学校は授業が終わった後にやっておりました。

町長 昨年賀茂小学校がやって、今年は仁科小学校となると来年は田子小学校なのですか。

教育長 来年は今使われているロボットを使わないで、田子小学校でやるみたいです。地域の方で興味のある方がおりましたので、その方に講師をお願いする予定です。

町長 微妙なのが、今の賀茂小学校の5年生が一回もプログラミングにありません。5年生、6年生が対象だったかと思います。今年の5年生は今年仁科小学校で、来年も田子小学校なので出来ません。

教育長 プログラミングのロボットを使うのも、たくさんあるプログラミング学習のうちの一つで、そのなかで賀茂小学校がおこなおうとしているのが、スクラッチというものになりまして、私は詳しい内容はわからないのですが、わかりますか。

石田係長 スクラッチというのは、インターネットサイトに色々なプログラムがありまして、それを基に生徒がプログラムを入力しまして、それが絵で動くというものになります。

町長 それは6年生がやるのでしょうか。

石田係長 賀茂小学校は6年生だったかと思います。

鈴木委員 プログラミング学習として今やっているのは、計測制御のみしかや
っていません。本来のプログラミングは幅広く、ホームページや広告
を作るというようなことも学習になります。

町 長 小学生はタグで自分のホームページを作るということはできるの
でしょうか。

石田係長 まだ無理ではないでしょうか。ツールがあればできるかと思いま
すが。

町 長 タグだけ書いておいて、こうすると何ができるというのを教えて、
タグだけで組み合わせるような。

石田係長 そういうツールがあればできるかもしれませんが、1から自分で
プログラミングというのはできないと思います。

町 長 それはインターネットのホームページのソースを見て、それを真似
させて覚えさせるというのはできないでしょうか。

石田係長 そうすることがスクラッチで出来ます。今のマインドストームも、1
個のツールが何秒動くというのをタグで出ているので、それを並べて
いきます。

鈴木委員 西伊豆中学校で15年くらい前に技術の授業で作らせました。それ
に10時間くらい使っておりました。栽培で学んだことをホームペー
ジにまとめるということなどを簡単に2ページくらいやっておりました
が、今では時間的にできません。

町 長 そこに放課後児童クラブをうまく使えばいいと思う。ただ放課後
児童クラブで教えてくれる人もいませんし、そこで何かを教えるとい
うのも。賀茂小学校は地域の人が6時間目くらいから来てもらって教
えてもらっていたのですか。

森本委員 そうですね。パターゴルフの人だったり、バスケットボールの人だ
ったり色々なものをしていました。英会話も希望者を募ってやって
おりました。

渡邊委員 仕事のための仕事のような気もします。プログラミングやりたい子はいるのですか。

町長 それは物の考え方で、発想力を育てるだとか、何かと何かを足すと何かができるというのを学ばせるために、プログラミング教育があるのではないのでしょうか。

渡邊委員 プラスそこに情熱といいますか、ゲームばかりやっている子がゲームを作る側になってみようという意味になるのですか。

町長 それも突き詰めればそうなります。そこまで行けない子たちが SE になっていたりします。

渡邊委員 そういう方向だったらいいと思います。ゲームで遊ぶだけでなく、作る側にも目を向けたら、それも一仕事になると思います。

局長 作ることに楽しさを感じる子はいると思います。その選択肢をいかに提供できるかという部分かと思います。プログラミングでも興味を持つ子はいると思います。

教育長 最初から興味を持っている子が何人いるのかはわかりませんが、やっているうちに表情は変わっていくので、それが面白い所だと思います。

町長 では、その他はここで終わりとしまして、何かご意見がありましたら、教育委員会事務局の方へとお話いただければと思います。

局長 それでは、以上をもちまして、平成 30 年度第 2 回西伊豆町総合教育会議を閉会といたします。本日は、ありがとうございました。

以上